

## 2009年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

### 第1問 ヨーロッパと周辺地域の自然環境に関する問題

第1問には、世界全図を用いた自然環境に関する問題が置かれることが多い(2005・2007・2008年度など)が、今回は2006年以來の特定地域の地図を用いた問題であった。また、前年と比較すると設問数(マーク数)が6→8、配点が16点→18点と分量的に増加している。問2、問3は頻出パターンとはいえ迷いやすい。問5・6・8も、地理的知識の有無を前提として、さらにその内容の正確な理解が問われている。全体としてやや難の印象で、出鼻をくじかれた受験生もいただろう。ただし、センター試験の特性を理解したうえで、ふだんからトレーニングを積んでいれば、ひとつひとつの設問が難問というわけではない。

#### 問1 正解は①

センター試験では、ハイサーグラフも雨温図同様によく出題されるので、図の見方と気候区ごとの図の特徴を理解しておこう。なお、この4都市はいずれも首都である。

マドリード(スペイン)は、地図からもわかるように地中海地方に位置し、「夏に乾燥する←→冬に湿潤となる」地中海性気候(Cs)である。したがって、月平均気温の高い7月ころの月降水量が少なく、逆に1月ころに低温湿潤となるため、左上と右下を結ぶ対角線状のグラフとなるのである。

②グラフが小さくまとまっているから、偏西風と暖流の影響で気温の年較差が小さく、年中安定した降水のある西岸海洋性気候(Cfb)のダブリン(アイルランド)である。

③・④の判別は(解答には不要だが)やや難しい。年間の降水量が少ない③が内陸のワルシャワ(ポーランド)、④が沿岸のタリン(エストニア)である。

#### 問2 正解は①

センター試験では、「○○山脈」「○○楕状地」といった名称の暗記よりも、大地形の様子を地図上で大まかにつかんでおくことの方が大切である。

まず、図の左上に見えるアイスランド島は、大西洋の中央を縦断する海嶺(大西洋中央海嶺)の上にある火山島である。海嶺とは、海洋プレートの広がる境界に沿って生じる地形だから、「プレート境界」の位置から①と④に絞られる。次に、大陸棚の分布であるが、大陸棚はかつて大陸の一部として陸上にあったところが海底に沈んで形成されたと考えられている。したがって大陸棚でつながっている陸地は、以前は地続きだったと

考えられる（1万年前の氷期までは大陸と地続きだった日本列島が好例である）。しかし、アイスランド島は先述のように海嶺上の火山島だから、ユーラシア大陸と地続きだったわけではない（地図帳のヨーロッパ主題図で「氷期の氷河の最大範囲」を確認してほしい）。したがって、②や④の大陸棚分布はありえない。以上から、①が残るのだが、大陸棚分布の判断に迷った受験生は多かったであろう。

問3 正解は②

地形断面図はセンター試験では頻出だが、苦手にする受験生が多い。日常的に地形の凹凸を地図帳で確認する習慣と過去問の練習が必要である。ただし、本問は難しくない。

Aはスカンディナビア半島を横断している。ここには古期造山帯で低平なスカンディナビア山脈が南北に走っているが、西側の大西洋側（●）は急斜面が海に沈んでフィヨルドを形成しており、東側（○）はゆるやかな斜面となっている。

- ① 侵食のすすんだ地形で、安定陸塊（バルト楕状地）の一部を示すBに該当する。
- ③ ●側の低地と○側の山地から、黒海沿岸のドナウ川流域と新期造山帯のトランシルヴァニア山脈を示すDに該当する。
- ④ 高く険しい山脈と○側の平原から、新期造山帯のピレネー山脈とフランス平原を示すCに該当する。

問4 正解は⑤

本問では3地点の地形環境と特徴をよく理解しておく必要があるが、センター試験としてはやや細かい知識に踏み込んだ印象がある。標準～やや難レベルであろう。

F：アイスランド島は、問2で見たように火山島であると同時に、北極圏に近い氷河の島でもある。島の南部と中央部に氷河が分布しており、イ文に該当する。

G：シチリア島は、イタリア南部に位置し、エトナ火山の活動が続いていることで知られる。したがってウ文に該当する。イタリアでは、他にポンペイ遺跡を生んだヴェスヴィオ火山が有名である。

H：トルコ（小アジア）は、国土全体が新期造山帯に位置する高原状の地形であり、内陸にはいくつかの火山も見られるが、この地点周辺には火山はない。トルコは1999年の1万6千人の犠牲者を出した大地震など、深刻な地震被害にしばしば見舞われている。よってア文に該当する。

問5 正解は②

フェーンなどの局地風について、現行教科書ではほとんど扱われておらず、一部教科書の発展学習コーナーに見られる程度である。センター試験でも、局地風の呼称自体が問題となったのは1996年本試以来である。したがって、教科書だけで学習した受験生には酷な出題であった。ただし、局地風フェーンに由来する「フェーン現象」は日本でも起きる気象現象であり、メカニズムを理解しておきたい（国立2次・私立大では必須）。

《フェーン現象のしくみ》

1. 山の風上側（本問の場合アルプス山脈の南側）では、山に沿って空気が上昇することで雲が生じ降水する。そのため、風下側には乾燥した風が吹き降ろす（⇒湿度低下）。

※ したがって、フェーン現象がおきると火災の延焼が起きやすくなる。

2. 気温は標高が高まるほど低くなるが、その割合（気温垂直減率）は湿った空気では100mにつき約0.5℃、乾燥した空気では100mにつき約1℃と異なっている。
3. そのため、麓からの山の高さが2000mとすれば、風上側では空気の上昇につれて気温が10℃下がり、風下側では下降につれて気温が20℃上がるため、風下側の麓は高温になる（⇒気温上昇）。

※ 1933年に山形市で記録された当時の日本最高気温40.8℃は、フェーン現象によるものと考えられている。（現在の日本最高記録は、2007年の埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市の40.9℃だが、これらはフェーン現象と都市近郊のヒートアイランド現象の相乗効果によるとされている。）

以上により、カーフェーン、キー上昇、クー低下と決まる。なお、ボラとはイタリア半島東側のアドリア海沿岸に北東から吹きおろす冬の寒風である。

問6 正解は③

植生に関する問題は、センター試験ではそれほど目立つわけではないが、気候と組み合わせる形で出題されてきた。本問では「照葉樹」「硬葉樹」といった用語に戸惑った受験生もいるだろう。

2008年の東進センター試験本番レベル模試では、照葉樹については第5回（10月19日実施）で、硬葉樹については第6回（12月23日実施）で選択肢文中に用いて、受験生に注意を促した。模試活用の重要性を強調しておきたい。

M：世界自然遺産のポーランド・ベラルーシ国境原生林である。もちろんそのような知識は不要で、この地域が温帯（西岸海洋性気候，Cfb）に近い亜寒帯（亜寒帯湿潤気候，Df）ということがおおよそ分かれば十分である。亜寒帯⇒針葉樹という大まかな結び付けで③を選べるだろう。この緯度帯では、偏西風の影響もあって内陸まで広葉樹との混合林が分布している。

- ① 常緑広葉樹が密生するのは、熱帯の熱帯雨林気候（Af）などである。
- ② 硬葉樹は常緑広葉樹の一種で、夏の乾燥に耐えるため葉が小さく硬いオリーブやコルクガシなどを指す。夏に乾燥する地中海性気候Csの地域に分布する。
- ④ 照葉樹も常緑広葉樹の一種で、冬の少雨に耐えるため葉の表面にクチクラ（キューティクル）と呼ばれる蠟の保護膜のようなものがあり、光沢を持つ。ツバキ・シイ・カシ・クスなど。温帯の広葉樹として、硬葉樹と対を成している。照葉樹林は、冬に乾燥する温帯冬季少雨気候Cw地域を中心に見られるが、主に中国南部～インド北部や、アフリカ大陸・南アメリカ大陸の中南部など、サバナ気候Aw区の高緯度側に接する地域に分布する。

問7 正解は③

湖の成因に関する出題だが、細かい知識はなくても北歐の自然環境から容易に判断できるだろう。第1問の中では基本問題である。

Pは「森と湖の国」とよばれるフィンランドに位置している。この地域の湖は、かつてバルト海を中心として大陸氷河におおわれていた時代のなごりである。

- ① 塩湖は砂漠気候（BW）などの乾燥地域に位置する内陸盆地に多い。カスピ海・アラル海・死海などが例としてあげられる。
- ② 三日月湖は河川の蛇行する沖積平野の氾濫原に見られる河跡湖である。洪水時に流路の一部が切断されてできる。P付近は問3のB同様に低平な地形で降水も少ないため、河川の流れはおだやかである。
- ④ 安定陸塊に位置するPに、火山活動は見られない。

問8 正解は③

立体的な模式図を用いた地形環境（ケスタ）に関する問題である。選択肢文も多少はヒントになるが、ここは知識として押さえておきたい事項である。なお、同じ地形の類題が1995年と1997年の追試にも出ているが、そのときも図1のX地点付近の例が扱われている。

X地点はフランスのパリ盆地を指す。パリ盆地は、ロンドン盆地と並んでケスタの典型

例である。図5では、中央やや左の凹地がパリである。侵食を受けにくい硬層と、受けやすい軟層が交互に重なった地層が、傾斜して地表に現れると、軟層が選択的な侵食をうけて急崖となり、取り残された硬層がゆるい斜面となる。この非対称な丘陵がケスタである。

パリ郊外のシャンパーニュ地方では、このケスタ斜面でブドウが栽培され、発泡性のワイン（シャンパン）に醸造されている。

- ① 断面図の段差が断層だとしても、谷は断層と直交しており「沿って」はいない。
- ② 石灰岩が侵食（溶食）された地形は、カルスト地形と呼ばれる。一般に、カルスト地形ではいくつもの凹地形がランダムに作られ、図5のような同心円状にはならない。
- ④ パリ盆地を含むフランス平原は古期造山帯に含まれ、火山はみられない。溶岩台地としてはインドのデカン高原が有名。

## 第2問 境港市とその周辺の地域調査に関する問題

現行課程になって毎年出題されている地域調査に関する問題である。前年も含め、最後の第6問に配置される年度が多い。第2問に置かれたのは2006年以来であるが、時間配分などのトレーニングをしてあれば、特に戸惑う理由はない。問1～3の地形図の読図は、例年並みの標準的な出題。問2の写真撮影の方向を問うた設問は久しぶりの出題である。問4・5と統計の読み取り問題が続いた。特別の知識は不要で、落ち着いて考えれば難しくないので、例年の安直に処理できる問題に比べるとやや時間がかかる内容である。問6の地域調査に関する問題は常識的に判断できる。大問全体としては標準レベルといえよう。

### 問1 正解（適当でないもの）は③

下線部の用語はいずれも基本的だが、読図でミスをした受験生が多かったようである。このような小地形は成因を理解しておかなければならない。

陸繋島とは、砂州によって陸地とつながった島である。砂州は、沿岸流によって砂礫が細長く堆積してできる砂地（対岸に届く程度に伸びたもの）であるが、島とつながった砂州は陸繋砂州（トンボロ）と呼ばれる。大根島も陸地とつながっているように見えるが、砂州ではなく人工の橋によってつながっているのだから、陸繋島ではない。弓ヶ浜半島で閉ざされた中海では沿岸流は弱く、砂州は発達しにくい。

- ① 潟湖（ラグーン）とは、海の一部が砂州によって閉ざされた水域である。中海のほか、サロマ湖・八郎潟などが好例。

- ② 飯梨川河口では、海側に陸地が突き出しているが、これは河川が運搬した砂・粘土が堆積してできた低平な地形の三角州（デルタ）である。この図の例は三角州（またはデルタ△）という呼称から想像される形とはいえないが、三角州の形状は河川の運搬力や沿岸流の強さなどの要因によってさまざまである。
- ④ リアス式海岸とは、河川の侵食で深いV字谷を刻まれた山地が、海面下に沈んでできた海岸である。山地の尾根は半島として突き出し、谷はおぼれ谷となって入り江となり、それらが交互に鋸<sup>のこぎり</sup>の歯のような海岸線を作る。日本では三陸海岸が典型例である。

問2 正解は①

過去に出題された写真撮影方向の判定問題（2003年度本試第1問，2004年度追試第5問など）に比べると，易しい設問であった。写真中央に見える弓ヶ浜半島東側の（その地名どおりの）弓形の海岸線が判断の決め手となるだろう。

問3 正解（適当でないもの）は③

地形図の読図に関する問題だが，前2問と同様に細かい地形図の知識や高度な読図技能を必要としない基本的な内容である。

中野町を南北に走る道路沿いにいくつかの標高点（・と数字の組合せ）があり，その数値が2または3であることから「標高10m以上」が誤りと判断できる。

- ① 建物の密集地は斜線で示されている。図中央左の「境港市」の文字と北部の水道に見える境界線 —・—・—・—・— から正文であることが判断される。細かく言えばこの境界線は都府県界であるが，当然，市の境界でもある。
- ② 昭和町付近の海岸線が直線的であるうえ，擁壁 ————— で囲まれていることから，人工的な造成地であることは明らか。
- ④ 畑 ∨ や水田 Ⅱ の地図記号は常識レベルにしておきたい。

問4 正解は③

統計の読み取りに関する問題であるが，先述のように過去の類題と比べると，やや手こずる設問であった。慎重に判断したい。

1993年の境漁港の水揚量は，図4からおよそ70万トンと読み取れる。一方，同じ年の日本における海面漁業（沖合・沿岸・遠洋漁業の合計）・海面養殖業生産量は，図3から（沖合＝400万トン強，沿岸＝200万トン弱，遠洋および海面養殖業＝100万トン強なので）合計800万トンと分かる。堺漁港の水揚量70万トン弱は，800万トンの10%すなわち80万トンより少ない。

- ① 海面養殖業生産量はほぼ横ばいで、「全ての種類で減少傾向」とはいえない。
- ② 約90万トンから約12万トンまで90%近く減少した釧路の減少率が最も高いのは計算するまでもなくグラフから明らかであろう。堺漁港は約56万トンから約10万トンまで80%強の減少率、他の漁港の減少率はずっと小さい。
- ④ 境漁港の水揚量は、1990～93年には増加し、その後急減しているが、沖合漁業の生産量にはそのような増減の動きはなく、ほぼ全期間減少傾向が続いている。

問5 正解（適当でないもの）は②

前問に続き、統計の読み取りに関する問題である。地理的な技能の一つとして統計の利用が重視されていることの現われであろうから、今後の受験生も注意が必要である。

図6によると、この期間水産加工品関係の事業所数は60から50弱に減少している。一方、水産加工品関係の出荷額は約450億円から約250億円に低下している。以上の読み取りができれば、あとは割り算でかたがつく。1事業所当たりの出荷額は、1995年では $450 \text{億} \div 60 = 7.5 \text{億}$ （円）、2005年では $250 \text{億} \div 50 \text{弱} = 5 \text{億}$ （円）強と減少傾向にある。

細かい計算をしなくても、グラフから事業所数の減少に比べ、出荷額の減少の方が急激であることが読み取れれば、正誤判定には十分である。

- ① 1994～95年におけるイワシ水揚量の激減により、全体の水揚量も半減している。
- ③ 水揚量は1995年の30万トンから2005年の10万トンと3分の1に減少したが、事業所数・出荷額の減少は半減までもいかない。
- ④ 各指標の減少傾向は見ればわかるので、水揚量と事業所数・出荷額の因果関係が問題。この統計だけで「水揚量の減少」以外の要因の存在を否定はできないが、それが主因であることは明らかだし、そのうえ選択肢文は「～減少したことなどにより」という慎重な表現になっている。したがって正文と考えてかまわないだろう。

問6 正解（適当でないもの）は②

地域調査の手法に関する設問であるが、常識的に判断できよう。

- ② 施設内で訪問者数を調べても、その訪問者の交通手段は分からないから、調査方法が調査目的に適っていない。
- ① 水木しげる（1922－）は、日本の代表的漫画家。代表作に『ゲゲゲの鬼太郎』『河童の三平』『のんのんばあとオレ』など。妖怪を題材にした作品が多く、妖怪伝承に関する研究者としても知られる。また、太平洋戦争に出征しラバウル戦で死線をさまよい片腕を失った経験から、戦争を主題とした作品も多い。「水木しげるロード」は、境港市の中心商店街（アーケード街）を活性化させるため、当地出身の水木氏の作品に登

場する妖怪たちのブロンズ像を設置し、関連イベントの開催などにより購買・観光客の増加を図った事業である。

### 第3問 農林水産資源とそれを利用した産業に関する問題

前年は第2問に置かれた産業に関する問題である。産業分野で農林水産業が主題となったのは2004年以来。とはいえ、問2の小麦カレンダーに関する設問以外は、いずれも標準的な知識で処理できるので、大問全体ではやや易レベルといえよう。

#### 問1 正解は①

主要穀物などの栽培起源地（原産地）に関する設問である。これは、単純に知識の有無を問う問題であるが、年降水量500～750mmのやや乾燥する地域が小麦の栽培適地であることが分かっているれば、知らなくても推理することは可能だろう。小麦の栽培起源地は西アジアもしくはカフカス地方と考えられている。

- ②中国のユンナン高原とインドのアッサム地方を結ぶ地域は、高温多雨に適した稲の原産地である。
- ③ニューギニア島は、サトウキビの原産地である。（以前はインドのガンジス川沿岸原産と考えられていたが、現在ではニューギニア原産とされる。）現在のサトウキビ主産地がブラジル・インドなどの熱帯地方であることから、赤道上の③と結び付けられよう。
- ④中央アメリカはトウモロコシの原産地である。メキシコではトウモロコシが主食である。

#### 問2 正解は②

小麦カレンダーに関する設問であるが、現行教科書の多くは小麦カレンダーを扱っていないし、あっても収穫期のみの表が一般的である。そのため、戸惑った受験生も多かったであろうが、落ち着いて考えれば選択肢を絞ることができよう。

小麦には冬小麦と春小麦の2種類がある。

- 冬小麦 … 1) 秋に播いて、冬・春を越して初夏（麦秋）に収穫する。  
 （冬は低温で日照が短いので、生育期間が長い）
- 2) 温帯を中心に、世界の小麦の大部分は冬小麦である。
- 3) アメリカ合衆国の中南部、中国の華北、中南ヨーロッパ、アルゼンチン、オーストラリア、ニュージーランドなど

春小麦 … 1) 春に播いて、秋に収穫する。  
 2) 冬に低温となる亜寒帯を中心とする高緯度地方。  
 (単位収量は小さいが、低温のため冬小麦ができない地域で栽培)  
 3) アメリカ合衆国の北部～カナダ、中国の東北、ウクライナ～シベリア地方など。日本では北海道。

気温の高い低緯度地方では春まき小麦を栽培することはないので、①②のいずれかがインドである。しかし、①は収穫期が他の国々(北半球)の端境期にずれていることから、南半球のオーストラリアである。

インドや地中海地方の小麦収穫期が3～5月となることは知っておいてもよいだろう。なお、③と④の判定はやや難しいが、③が収穫期の早いフランス、④がイギリスとなる。

▼世界の小麦カレンダー(収穫期)

国		月											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
北半球の国	ドミニカ												
	アンティグア												
	セントビンセント												
	グレナダ												
	セントクリストファー												
	ネーデルラントのアンティル												
	トリニダード												
	ジャマイカ												
	ハイチ												
	キューバ												
	セントルシア												
	セントパウル												
	セントピエール												
	セントヘレナ												
南半球の国	アルゼンチン												
ブラジル													
ウルグアイ													
パラグアイ													
ボリビア													
ペルー													
チリ													
オーストラリア													
ニュージーランド													
南アフリカ													

問3 正解は①

各国の畜産業に関する正誤判定問題である。ごく基本的な設問であった。アルゼンチンでは、パンパで羊や肉牛の企業的牧畜が行われている(牧牛はおもに湿潤パンパ、羊はおもに乾燥パンパやパタゴニア)。肉牛は、大牧場エスタンシアで牧童ガウチョがアルファと呼ばれる牧草などを用いて飼育している。

ヨーロッパや北米などの大消費地から遠い南半球で牧牛が成立した要因としては、新鮮な食肉を輸送する冷凍船と内陸鉄道の発達、広大な草原を囲う有刺鉄線の利用などが挙げられる。

- ② オーストラリアである。牧羊は特に大鑛井（グレートアーテジアン）盆地でさかんである。
- ③ スイスである。高山の放牧地をアルプと呼ぶ。
- ④ インドである。ヒンドゥー教徒は牛を神聖な動物としてその肉は食べないが、乳は伝統的にバターなどに加工して利用してきた。近年、都市部を中心に生乳をはじめとする乳製品の消費が増大している。「白い革命」の語は、センター試験では初めて用いられた。米や小麦の多収量品種を導入する「緑の革命」からの連想で使われている語である。

問4 正解は②

木材の各指標と統計地図の組み合わせ式6択問題である。3つの地図の判別が必要だが、正確なデータの知識がなくても簡単な意味づけができれば容易に正答にたどりつく。

- A：伐採量である。木材生産は、熱帯林と亜寒帯（冷帯）林でとくに盛んである。A図では、熱帯～亜寒帯の広範囲に上位国が分布している。
- B：輸入量である。アメリカ合衆国・ヨーロッパ諸国・日本などの先進諸国が上位であること、成長の著しい中国の輸入量が多いことが決め手となる。
- C：輸出量である。伐採量は多い熱帯林だが、その大部分は薪炭材（煮炊きなどのための燃料用）として自給的に伐採されているので、輸出される割合は小さい(マレーシアでは加工して日本向けに南洋材として輸出している)。そのため、加工しやすく市場に近い亜寒帯林の資源量が大きいロシア・カナダ・北欧諸国が上位となっている。

問5 正解は②

国ごとの水産業の特徴に関する文章組合せ式6択問題である。これも標準的な問題レベルである。

- ア：内水面漁業が盛んであることや魚種から、中国であることが分かる。ウナギなどは日本に多く輸出されている。
- イ：アンチョビー漁は、寒流（ペルー海流）の湧昇によってよい漁場となっているペルー沖で盛んだから、ペルーについて述べている。魚粉は飼肥料として用いられる。
- ウ：サケは北洋を中心に分布する寒流魚だから、その養殖は北ヨーロッパのノルウェーと結びつく。

問6 正解（適当でないもの）は④

農業のグローバル化についての文章正誤判定問題であるが、誤文の誤りをはっきり指摘できれば他の細かい知識は不要である。

米の主な生産国は中国・インド・インドネシア・バングラデシュ・ベトナムなどである。季節風（モンスーン）の影響で夏に高温多雨となる東・東南・南アジアの沿岸部を中心とするが、これらの地域では米は自給的に生産されている。そのため、世界の年間生産量約6億トンのうち、貿易にまわるのは2500万トン程度であり5%にも満たない。

これに対し、小麦は中国とインドのほかでは欧米諸国を中心に生産されているが、ヨーロッパでは商業的な生産、アメリカ合衆国などでは企業的生産がみられる。米とほぼ同じ年間生産量約6億トンのうち、20%（1.2億トン程度）が輸出に回されている。

なお、②の選択肢文中「EU（欧州連合）は（中略）域外からの安価な輸入農産物に課徴金を課している。」とある点について付言しておく。EUの輸入課徴金は、GATTのウルグアイラウンド合意（「例外なき関税化」）に基づき、1995年に関税化された。すなわち、それまで境界保護措置として域内農家を保護していた可変課徴金（国際価格と域内価格の変動に合わせて日々賦課率変動する課徴金）の賦課率が固定され、関税と同様になったのである。したがって、選択肢中の「課徴金」は、用語の面で誤りとまでは言えないが、やや不適切であろう。

第4問 村落・都市に関する問題

集落の形態や内部構造、機能や景観に関する標準的な設問が中心であった。問1・2のような集落の形態に関する出題は近年減少していたので戸惑った受験生もいよう。実際の都市名を扱った問題のうち、問2はともかく問3は細かい地名の知識が必要となる。問5は3都市の性格を理解していれば易しい。標準レベルの大問であるが、一部の受験生はここで悩みすぎ、後半の時間不足を招いたのではないだろうか。

問1 正解（適当でないもの）は③

村落形態の模式図に関する文章正誤判定問題である。文中の用語に惑わされて、誤文のなにげない誤りを見逃さないようにしたい。

Aは米国のタウンシップ制や、それを模倣した北海道の屯田兵に見られる、格子状の地割と散村を示している。広大な未開発地域を計画的に開拓するための村落形態

である。

Bは中世ヨーロッパの林地村や、江戸時代の新田集落に見られる、短冊状の地割と路村を示している。開拓された耕地を基盤に、中心道路に沿って形成された村落である。

林地村は、ドイツやポーランドで森林地域を開拓することを目的に、谷沿いの道路に家屋を集めたものである。その後背の耕地・草原・森林が農家の持分ごとに細長く区切られている。したがって、自然発生的に生じた集落ではない。

- ① タウンシップ制とは、アメリカ合衆国の西部開拓のための公有地分割制度である。この開拓地は、のちにホームステッド法によって開拓者の私有が認められた。
- ② 明治時代の北海道には、警備と開拓のために屯田兵が置かれ、タウンシップ制をまねた計画的な村落＝屯田兵村が作られた。開拓の効率のため、散村の形態をとっている。
- ④ 新田集落は、江戸時代の幕府や諸藩の新田開発で開拓された高燥地（洪積台地・火山山麓・砂丘など）や干拓地に作られた。

問2 正解は⑥

世界の各都市における道路形態に関する都市名と模式図の組合せ式6択問題である。3都市に関する知識が前提となるが、さほど難しくはない。

ア 直交路型。碁盤目の街路をもつ、世界の大都市に最もよく見られる形態である。中国の長安を模倣した日本の京都（平安京）・奈良（平城京）の他、札幌、ペキン、シカゴ、ニューヨークなど。

イ 迷路型。かぎ型道路や袋小路が多い複雑な街路。外敵の侵入を防ぐ防御機能を持つ。テヘラン・ダマスカス・カイロ・チュニスなど、イスラム圏の古都に多い。

ウ 放射環状路(同心円)型。放射状道路と、環状道路の組合せ。計画的に建設された政治都市に多い。パリ、キャンベラ、モスクワなど。

問3 正解は④

都市整備や地域開発に関する説明文の選択だが、ハーローやボローニャはセンター試験レベルとしては高度であり、苦戦した受験生が多かったであろう。ボローニャは、イタリア北部、パダノ＝ベネタ平野の南に位置する商工業都市であり、交通の要衝となっている。ルネサンス期の芸術の都であり、世界最古といわれるボローニャ大学を擁し、中心部は中世の面影を残す歴史観光都市でもある。サッカーファンなら中田英寿元選手が所属したボローニャFCを思い出すかもしれない。

- ① ロンドン（イギリス）郊外に、ニュータウンとして建設されたハーローである。
- ② 「港湾地区」などからシドニーとわかる。
- ③ 「古くからの市街地」＝オールドデリーと、イギリス人が植民地支配のために建設したニューデリーに分けられる都市であるデリーの説明文である。

問4 正解は②

ロサンゼルス民族ごとの居住地域を示す統計地図の選択問題であるが、ヒントとなる説明文をよく読めば、前提となる知識がなくてもそれほど難しいとはいえない。

ヒスパニック：「家賃や通勤などの経済的負担の少ない地域」から、都心部に近いが老朽化するすむインナーシティを想起したい。CBD周辺を示す①か②であるが、「居住が拡大」とあるから②に絞り込む。近年急増するメキシコなどからの移民であるスペイン語話者であるが、英語が話せないものが多く、低賃金労働者として利用される。とくにロサンゼルスを含むカリフォルニア州は、メキシコに隣接しているのでヒスパニック系の移民労働者が多い。

アジア系：「かつては都心に隣接」と「居住地の郊外化」から③か④だが、増加しているとはいえずアジア系がアメリカ合衆国の中で占める割合はごく小さいから④。

黒人：「かつては都心部に多く居住」と「居住地は縮小」から①。「新たな移民の流入」とはヒスパニックなどを指している。

白人：「人口密度の低い戸建て住宅地区」とは、CBDから遠い郊外であるから、③。人口割合が高いので、居住地面積は広い。

問5 正解は①

日本の地方都市の特徴に関する統計と都市名の組合せ式6択問題である。3都市とも代表的な都市であるから、性格を把握しておきたい。

仙台市：東北地方の中核都市であり、大企業や銀行の支社・支店、官公庁の出先機関などが集中する支店経済の都市である。昼間は周辺の農村部などから勤労者が流入し、昼夜間人口指数が高い。就業者はサービス業など第3次産業が中心である。よって、カにあてはまる。

千葉市：東京近郊のベッドタウン（住宅衛星都市）なので、昼間は住民の多くが東京都市部に通勤するため、昼夜間人口指数が低い。よってキに該当する。

浜松市：東海工業地域の一部をなす静岡県の実業都市であり、ヤマハ（二輪車・楽器）、ホンダ（二輪車）などの工場が多い。そのため、労働者の多くが第二次産業に従事している。したがってクにあてはまる。

問6 正解は③

商業地の景観に関する説明文の正誤判定問題である。写真の内容と常識的な判断から簡単に正答にたどりつくであろう。

写真スのような郊外の幹線道路沿いには、紳士服・家具・家電などの専門スーパーや、ファミリーレストラン・ファーストフード店などの飲食店などが立地している。この多くは全国チェーン店であり、広大な駐車場を備えた大規模な店舗で営業している。このような地域では、古くからの地元資本店舗は、写真シのような老朽化した駅前商店街に見られる。自動車での利用の便が悪いうえに集客力が低く、いわゆる「シャッター通り」になっているものが目立つ。

写真サは、東京の副都心ターミナル駅である渋谷駅前の景観である。

写真セは、修復保全型の再開発である「街並み保存」によって、伝統的景観を残し観光資源としている景観である。具体例として旧中山道沿いの宿場町の街並みが保存されている妻籠・馬籠などがあげられる。

第5問 カナダ地誌に関する問題

地誌問題が国単位を題材に出題されることは珍しい。1999年の「アメリカ合衆国」以来である。その点で戸惑うということはないだろうが、ヤマを張った受験準備では対応は難しい。問1はちょっと「ひっかけ」だが冷静に対応したい。問3の都市判定は地図の読み取りがヒントになる。問6において、カナダとメキシコの判定に迷わなければ全体としてやや易レベルといえる。

問1 正解（適当でないもの）は③

カナダの自然環境に関する文章正誤判定問題。慌てて引っかけからないようにしたい問題である。カナダの主要地域の大部分は亜寒帯気候で、植生はタイガと呼ばれる針葉樹林であるが慌ててはいけない。Cの地域は北アメリカ大陸の最北部であり、北極圏に位置する。気候区は寒帯のツンドラ（ET）気候だから、森林は存在しない。

- ① 大陸西岸の高緯度部に西岸海洋性Cfb気候が分布するのはユーラシア大陸と同じ。（ただし、沿岸に山地があるのでユーラシア大陸ほどの広がりが無い。）
- ② Bは、環太平洋造山帯の一部、ロッキー山脈である。
- ④ Dはセントローレンス川の河口であり、ラッパ状の入り江となっている。

問2 正解は④

農牧業地域に関する文章選択式問題である。超重要事項であるアメリカ合衆国の農業地域区分図を想起すれば易しい。

F地域は、地図でもわかるようにアメリカ合衆国の中央北部とつながる農業地域である。合衆国中央を通る西経100度線は、年500mmの等降水量線と一致する。地形的には、ロッキー山脈東麓のなだらかな台地グレートプレーンズとミシシッピ流域の中央平原をつなぐ地域で、プレーリーと呼ばれる草原に肥沃な黒色土が分布する。この100度線の南側が冬小麦地帯、F地域が春小麦地帯である（冬小麦・春小麦については第3問・問2を参照）。半乾燥で肥沃な環境が、小麦栽培の適地となっている。

- ① トナカイの遊牧は、北極圏に居住するイヌイットによって行われる。
- ② アメリカ合衆国のトウモロコシ地帯（コーンベルト）に見られる経営形態である。
- ③ 合衆国の五大湖周辺～東海岸に見られる大都市近郊の酪農である。

問3 正解は③

カナダの4都市に関する説明文の選択式問題であるが、地名の知識としてはやや細かい。ただし、地図上に位置が示されているから、文章の内容を検討していけばある程度絞り込むことができる。トロントは、図1でわかるように五大湖の1つオンタリオ湖に臨む大都市である。

- ① 「内陸水運の起点」とあるから、図からトロントとモントリオールで迷った受験生もいただろう。外洋とつながるセントローレンス川は、セントローレンス海路によって五大湖水運と結ばれている。モントリオールはその結節点に位置するから、海路以西の水運の始点といえよう。よって、①はモントリオールである。（五大湖はスペリオール湖からオンタリオ湖まで運河でつながっているから、トロントの位置は「起点」とはいえない。）
- ② ロッキー山脈油田の「豊富な石油・天然ガス」と結びついて発達したのは、ロッキー山脈の麓にあるエドモントンである。Fの春小麦地帯とも近いので、ウィニペグとともに「穀物の集散地」となっている。
- ④ バンクーバーは、カナダの太平洋岸とバンクーバー島との間にある海峡に面した港町であるとともに、東部と太平洋岸を結ぶ陸上交通の要地でもある。

問4 正解は⑤

カナダへの移民の出身地域・国別割合の統計に関する国名組合せ式6択問題である。アメリカ合衆国については、教科書・地図帳などでよく見かける内容の統計だが、カナダについては初見だった受験生も多いだろう。しかし、カナダの民族についての基本的な理解があれば、標準的な難易度の設問といえる。

ア：カナダの主要民族は、イギリス系・フランス系の移民やその子孫である。したがって、以前はヨーロッパからの移民が大部分であったと考えられるので、ア＝ヨーロッパ。

イ：ヨーロッパに代わって、近年増加しているのは中国・インドをはじめとするアジア系の移民である。多文化主義を採用するカナダには、世界中からの移民が集まるが、人口規模が大きく経済的格差のあるアジアからの移民の割合が高くなる。とくに太平洋側のバンクーバーなどに多い。よってイ＝アジア。

ウ：残ったウ＝中央・南アメリカである。これらの地域と隣接するアメリカ合衆国と違い、ヒスパニック(ラティーナ)の割合は高くない。

問5 正解は②

カナダの州別の民族分布の統計に関する組合せ式6択問題である。カナダの民族に関する地誌的知識を持っていることを前提としているので差の付く設問であろう。

P：バンクーバーのあるブリティッシュ・コロンビア州。カナダの大部分の州では、イギリス系移民の子孫が主要民族であり、したがって英語人口の割合が高いカに該当する。カナダ全体では、英語人口の割合は約74%である。

Q：北極海に臨むヌナブト準州は、先住民族であるイヌイットの自治権を保障するために、1999年に設置された。したがって、その他の言語の割合が高いクに該当する。

R：東部のケベック州は、フランス語系住民が人口の約80%を占め、分離独立を求める動きがある（1995年の住民投票では僅差で独立反対派が勝利した）ことは重要な民族問題の学習項目である。しかし、ケベック州の位置を確認しておかなければ、本問のような出題が多いセンター試験には対応できない。地図帳を利用した学習を肝に銘じて欲しい。

問6 正解は③

NAFTA（北アメリカ自由貿易協定）の3カ国の相互の貿易統計に関する国名の組合せ式6択問題である。出題形式はセンター試験ではおなじみである。本問ではカナダとメキシコの判別が決め手になる。

アメリカ合衆国：この3国の中で（というより世界全体で）飛びぬけて規模の大きい消費国であり、国内供給では足りず輸入額が2位ドイツの2倍以上の世界一となっている。したがって、Yに該当する。

カナダ：残りの2国は、アメリカ合衆国との貿易品目がそっくりなので判断が難しいが、カナダは、(1) 先進国として貿易額が大きく、アメリカ合衆国との経済的結合がより強いこと、(2) 農業国として貿易品目に食料が含まれることなどから、Xに該当することがわかる。

メキシコ：残ったZに該当する。日用品、すなわち軽工業品の輸出が多いのは、工業化の途上にある国の特徴である。

## 第6問 現代世界の諸問題に関する問題

水資源、医療、食料需給、少子高齢化、女性の社会進出について、おもに統計を基にした出題となっている。いずれも過去に類題のある標準的な出題である。問2と問5は途上国同士の比較になるので、各国の差異に注意が必要。問3は説明文の読み取りがカギ。問題数も少ないので、あまり時間をかけずに要領よく済ませて、他の見直しをしたいところであるが、過去問トレーニングの手を抜いた受験生は、逆に時間切れになったかもしれない。

### 問1 正解（適当でないもの）は④

水資源利用の統計地図の読み取りに関する文章正誤判定問題である。誤文が明白なのでほとんど迷うところはない。イギリスやドイツなどのヨーロッパ先進諸国は、世界全体で見れば人口密度の高い地域である。

- ① 熱帯収束帯は赤道付近だから、南米のブラジル、アフリカのコンゴ盆地、東南アジアのインドネシアの島々などが高位になっていることを確認する。
- ② ロシアやカナダは、亜寒帯～寒帯気候が広く分布するが、低温のため蒸発量は少ない。また、国土の大部分に森林が広がっており、人口密度は低い。
- ③ 西アジア～北アフリカなどの砂漠気候の国々が低位であることを確認する。

### 問2 正解は④

発展途上国の医療に関する統計についての国名の組合せ式6択問題である。先進国と発展途上国との比較ならやさしいが、途上国同士の比較なので、国の特徴をしっかりと把握

しておきたい。単純に言えば、結核発症数・乳児死亡率が高く、また、医師数が少ないほど、その国の医療レベルは低い。表中、A・B・Cの順で医療レベルが低いことが分かる。医療レベルが低い最大の原因は貧困である。つまり、国の経済レベルの低い順にA・B・Cと当てはまることになる。

アルゼンチン：国民の9割がヨーロッパ系白人の占める国である。パンパでの農牧業が盛んで、農畜産品の輸出が多い。また、ブラジルやメキシコと並んでラテンアメリカでは工業化の進んだ国である。1人当たりGNI（国民総所得）は4470ドル（2005年）。

フィリピン：アセアン諸国の中で工業化の進むシンガポール・タイ・マレーシアなどに遅れをとっている。地下資源も豊富ではなく、海外出かせぎ労働者からの送金が重要な外貨獲得源になっている。1人当たりGNIは1320ドル（2005年）。

ケニア：サハラ以南の東アフリカに位置する農業国である。周囲の国々の多くは最貧国と呼ばれる後発発展途上国だが、ケニアには自然動物公園などの観光やコーヒー・茶などのプランテーション農業があり、「最貧」とまではいけない。しかし1人当たりGNIは540ドルにすぎない（2005年）。

したがって、3国の経済レベルは、ケニア・フィリピン・アルゼンチンの順に低く、それぞれ、A・B・Cにあてはまる。

### 問3 正解は②

地図中3カ国の食料需給に関する説明文との組合せ式6択問題である。PやQの国名があやふやだったり、「強制作付け」などの用語の理解が不十分だったりする受験生は多いだろうが、他の部分のヒントで十分正解可能である。

ア：説明文から、内戦や難民などの混乱や、飢饉に近い食料不足が読み取れるので、中東アフリカ諸国が抱える問題であると分かる。Pのコンゴ民主は、最貧国のひとつである。

イ：輸出用の商品作物の強制栽培制度とは、オランダが植民地インドネシアに課した収奪的な政策である。多収量品種の導入とは、東南アジア～南アジアで盛んに行われた「緑の革命」を指す。Rのインドネシアは、2億3000万人を越え、世界第4位の人口を持つ。

ウ：「地下資源の輸出」から、ペルシャ湾岸の産油国と結びつけることができる。乾燥気候が広がる地域なので食料生産量は少ない。Qのアラブ首長国は、ドバイの都市開発に象徴されるように、石油輸出により莫大な収入を得ており、食料は輸入でまかなわれる。

問4 正解は③

少子化・高齢化についての統計に関する選択式の問題であるが、このタイプの統計は迷い始めるとこんがらがってしまいやすい。明確で単純な理由付けが必要である。まず、高齢者の割合について15%以上の①・②と、10%未満の③・④に分けられる。当然、前者が先進国、後者が発展途上国の特徴を示している。ところが、出生率は①・③が低く、②・④が高い。一般に出生率は先進国で低く、途上国で高いので、ここまでに①=先進国、④=途上国は確実なのだが、②と③で迷うことになる。この問題のかく乱要因のひとつはシンガポールの存在である。シンガポールは発展途上地域である東南アジアの国だが、国民所得は先進国レベルである。ただし、アジアNIEsとして1970年代以降に重化学工業が発達した国なので、ヨーロッパや日本に比べるとまだ高齢化はそれほどすすんでいない。一方、都市国家であるため「農村」がほとんど存在せず、出生率は低めである。次にフランスについてだが、フランスも日本やドイツなど他の先進国同様に著しい少子化が問題となった国だが、女性の出産や育児に関する財政的な支援制度や福祉システムを充実させ、近年は出生率の向上がみられる。以上より、①=ドイツ、②=フランス、③=シンガポール、④=タイ と判定される。

問5 正解は⑤

女性の社会進出を示す指標の統計に関する国名の組合せ式6択問題である。前問以上に国の性格の理解が解答を左右する。

《識字率の傾向》

- 1) 先進国では男女ともほぼ100%。他でも工業化・経済成長がすすんだ国ほど高い。
- 2) (旧)社会主義国では、平等の原理から、男女差が小さい。
- 3) イスラム圏では、女性の社会進出が抑圧されており、女性のみ低い。
- 4) アフリカでは、貧困の他に、旧宗主国の言語が公用語になっていることも多く、男女とも低い（女性は特に低い）。

女性の識字率が低いということは、当然女性の社会的地位は抑圧されており、労働力率も低くなる傾向にある。また、第3次産業については、経済レベルが高いほど増加する。おおよそ、経済の発展段階にあわせて、第1次→第2次→第3次と遷移する。

カ：3カ国の中で最も経済レベルが高いので、アメリカ合衆国の隣国として輸出指向型の工業化を進めているメキシコと分かる。

ク：極端に指標の数値が低いので、イスラム教国のパキスタンと分かる。

キ：残ったカンボジアである。長い混乱と内戦の結果、工業化・経済成長が著しく遅れている農業国で、第3次産業割合が低い。